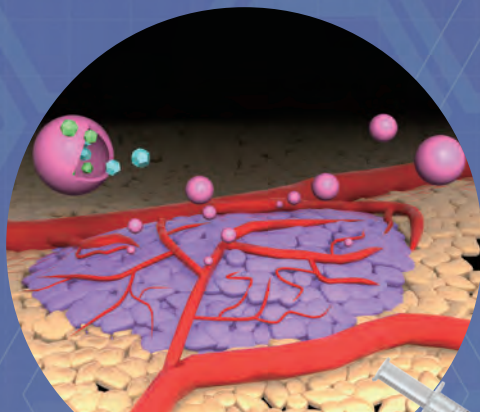
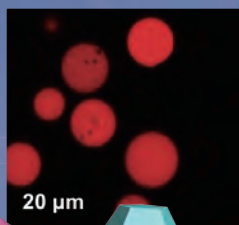
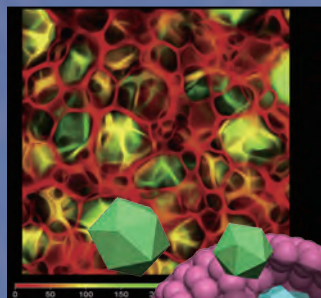


Title	ナノ材料で病気を治す
Author(s)	秋吉, 一成; 安藤, 満; 澤田, 晋一
Citation	京都大学アカデミックデイ2017 : 研究者と立ち話 (ポスター/展示) (2017)
Issue Date	2017-09-30
URL	http://hdl.handle.net/2433/227856
Right	
Type	Presentation
Textversion	author



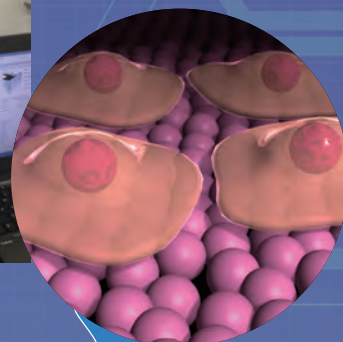
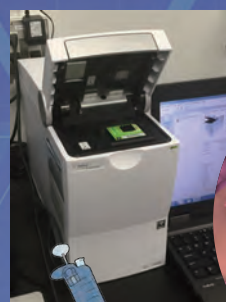
病気の患部だけを攻撃する ドラッグデリバリー

薬（ドラッグ）を必要な量だけ、必要な場所（患部）に、必要なときに届ける（デリバリー）システムをドラッグデリバリーシステムと言います。このシステムの実現のために、薬の運搬役（ドラッグキャリア）として、様々な機能をもつバイオマテリアルの研究・開発が進められています。



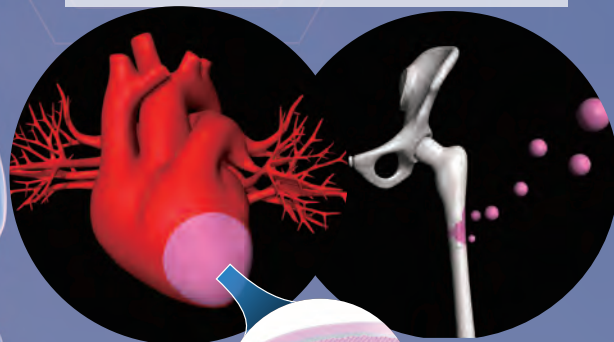
材料科学を医療に役立てる

バイオマテリアルとは、生体（バイオ）と直接接触させて利用し、生体機能に作用する材料（マテリアル）のことです。ポリマーなどの有機化合物や、ガラスなどの無機化合物、そして金属など、さまざまな材料がバイオマテリアルとして利用されています。私たちは医療や生活の場で役立つ、より高機能なバイオマテリアルの開発を行っています。



iPS 細胞などで病気状態を再現 診断・創薬支援

様々な病気を発見し、調べるための検査（診断）が医療現場では行われています。より簡単に、病気をもっと早い段階で発見するための診断方法の開発にもバイオマテリアルが利用されています。また、新しい薬の開発には人工的な病気の再現が必要です。このような患部環境の再現にもバイオマテリアルは必要不可欠です。



損傷した組織を回復する 再生医療

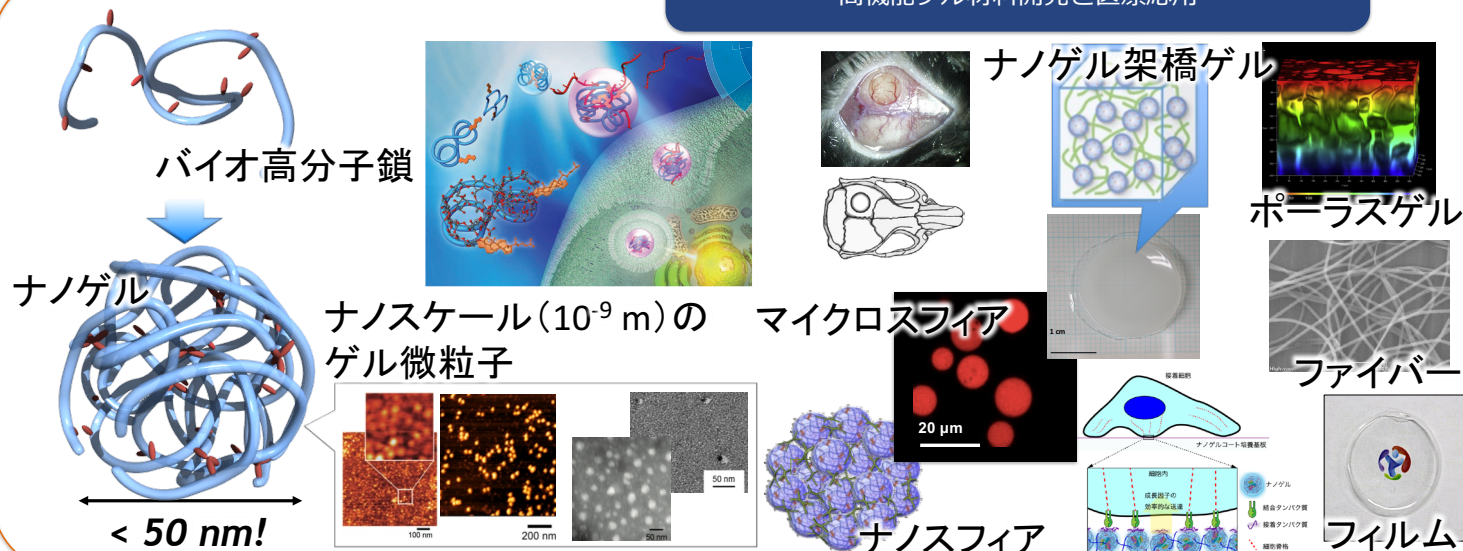
病気や病気の治療、怪我などにより失った組織や臓器を再生する治療法を再生医療と言います。細胞の増殖を助け、目的の機能や形状をそなえた組織や臓器を再生するためには細胞の足場となり、細胞の機能をコントロールするバイオマテリアルが必要です。iPS 細胞の研究とともに再生医療用バイオマテリアルの研究も活発に行われています。

本プロジェクトでは、生体分子システムを規範としてバイオ医薬品や分子マーカーの徐放制御や選択的輸送を行える機能性ナノ微粒子(バイオナノトランスポーター)を創製するため、以下の3つのテーマに取り組んでいます。

ナノゲル工学

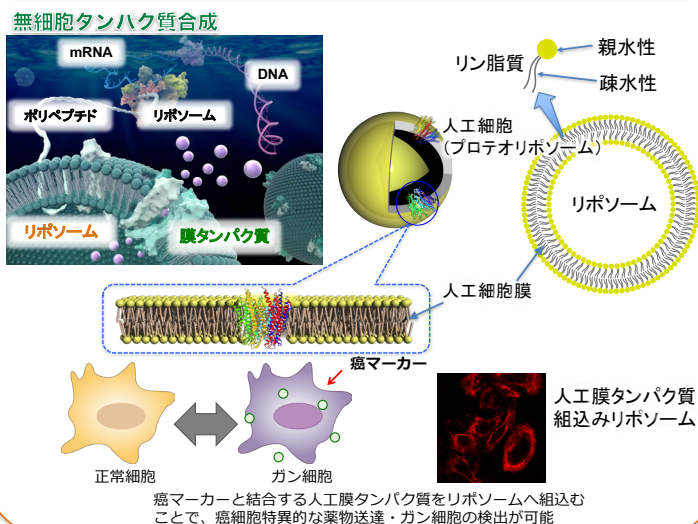
ナノゲル :50nm以下の大きさのゲル微粒子

ナノレベルで構造を制御したゲルマテリアルなどの
高機能ゲル材料開発と医療応用



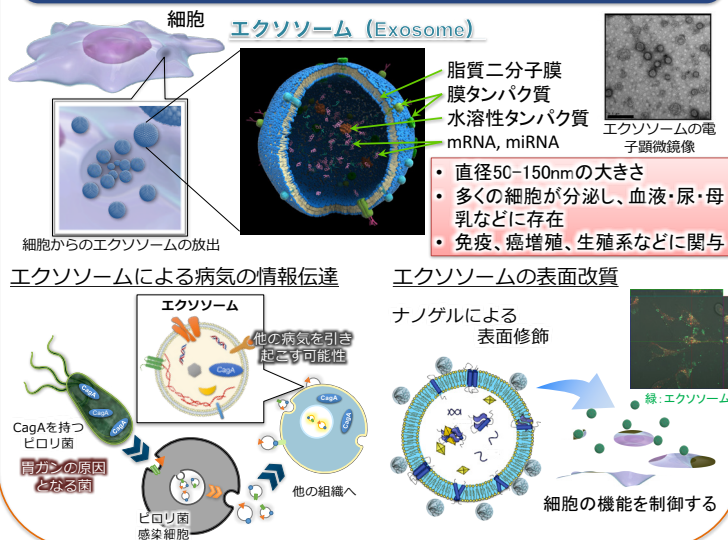
プロテオリポソーム工学

プロテオリポソーム：膜タンパク質を組込んだリポソーム
膜タンパク質をリポソームへ自在に組み込む技術を
開発し機能性バイオ材料として応用



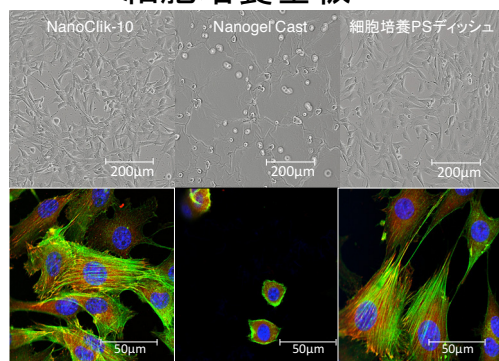
エクソソーム工学

エクソソーム：細胞間のコミュニケーションツール



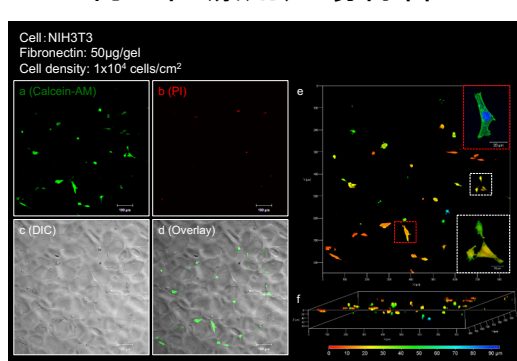
薬物キャリア、診断・計測や癌免疫治療、骨再生医療などの医療応用

細胞培養基板

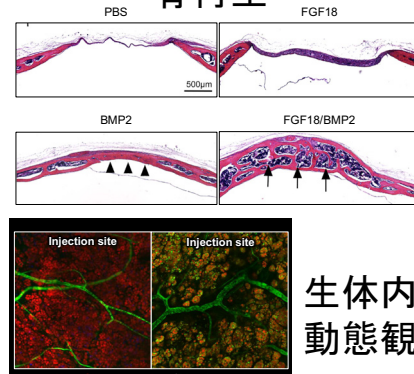


緑:アクチンファイバー、赤:ビンキュリン、青:核

再生医療用足場材料



骨再生



生体内
動態観察